

令和2年度水力発電の導入促進のための事業費補助金

（水力発電事業性評価等支援事業）のうち

水力発電の開発・導入のための賦存量調査事業

公募要領

令和2年5月

一般財団法人 新エネルギー財団

目 次

1. 事業の目的	1
2. 業務の内容	1
3. 業務実施期間	2
4. 応募資格について	2
5. 契約の要件	3
6. 応募手続きについて	3
7. 審査・採択について	5
8. 契約について	6
9. 対象経費について	6
10. 説明会の開催	7
11. 応募書類の様式	7

1. 事業の目的

エネルギー自給率が低い我が国において、水力発電は再生可能エネルギーの中でも安定的な電力供給を長期に亘り行うことが可能な電源と位置付けられており、平成27年7月に政府が決定した「長期エネルギー需給見通し」においても、令和12年（2030年）の電源構成として、8.8～9.2%程度が見込まれている。

非化石エネルギーである水力発電は、純国産でクリーンな再生可能エネルギーであるという特徴を有しており、地球温暖化に対応するため、開発・導入を支援していく必要がある。

一方、今後の水力開発地点は小規模化、奥地化しており、開発が困難化している状況にあることから、水力開発を推進する観点から未開発となっている地点について経済性及び自然・社会環境に関する課題を調査・分析することが重要となっている。

本事業では、未開発有望地点における実現可能性の評価およびダムにおける増発電電力量可能性調査を行い、水力発電の開発促進に資することを目的とする。

2. 業務の内容

前年度までに実施した既存農業用ダムの発電ポテンシャル調査結果から抽出した有望地点について現地調査等を実施し、実現可能性を評価する。また、平成26年度から実施してきた賦存量調査を総括する。

既存ダムの運用を高度化し発電電力量を増加させるための、IT技術も活用したダム流入量予測について検討を行う。

(1) 未開発地点における実現可能性の評価

a. 実現可能性の評価対象地点

令和元年度までの調査において100kW以上の最大出力が期待できる地点のうちから、発電開発に向けた取り組み状況、年間可能発電電力量等も考慮し、開発の実現可能性が比較的高い未開発地点を抽出する。

b. 実現可能性の評価

抽出された未開発地点において、現地調査を行い、当該地点における開発の実現可能性を評価する。

c. 賦存量調査の総括

平成26年度から実施してきた発電ポテンシャル調査および実現可能性評価を総括する。特に、過去の調査で実現可能性評価を実施した地点については、各種開発補助制度の最新情報を反映した経済性評価を実施することとし、必要に応じて再計算を行う。さらに、過去の調査において採算性ありと評価した地点の現在の開発状況を調査する。

(2) ダム流入量予測の検討

令和元年度の調査で導いた方向性に基づき流入量予測手法の深堀りを行い、有力な計算手法の選定を行うとともに、運用フェーズに入った場合の事業スキームについても検討する。

(3) 委員会の運営

有識者から構成される検討委員会を前記(1)および(2)の業務に対してそれぞれ設置し、調査内容及び取りまとめ方法に関する意見を集約し、反映させる。

有識者から構成される検討委員会については、5名程度で2回程度の開催を見込み、委員長及び委員の選任及び人数については、事前に一般財団法人新エネルギー財団と調整・確認を行うものとする。

(4) 報告書の作成

業務報告書及び概要版を作成する。(電子媒体2枚)

(5) 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「密閉」「密集」「密接」を避けるなど十分に配慮して本事業を遂行すること。

新型コロナウイルス感染症対策について状況変化があった場合は当財団にすみやかに報告し、協議のうえ、適切な対応を取ること。

3. 業務実施期間

契約締結日～令和3年2月15日まで。

4. 応募資格について

本業務の対象となる事業者は下記(1)～(6)を全て満たすものとする。

- (1) 日本法人(登記法人)であること。共同体を構成する場合は、幹事法人を定めて応募すること。
- (2) 経済産業省が定める補助金等の交付停止事業者に該当しないこと。
- (3) 業務を円滑に遂行するため、十分な経営基盤を有していること。
- (4) 業務を運営・管理できる水力発電に係る専門的能力を有しており、業務を実施するための実施体制及び管理体制が整備されていること。
- (5) 水力発電に関する諸申請、手続き、設計、保守等に関するノウハウを有しており、本業務を円滑かつ的確に実施できること。
- (6) 委託契約等で民間会社に業務の一部を実施させる場合、民間会社に対して確定検査等を行い、確定検査等で確認した資料の写し等を保管する体制が取れていること。

5. 契約の要件

(1) 契約形態

単年度契約による委託契約

(2) 採択件数

1件

(3) 成果物の納入

業務報告書および概要版を納入する。(電子媒体2枚)

(4) 委託金の支払時期

委託金の支払いは、原則として業務完了後の精算払いとする。

(5) 支払額の確定方法

業務終了後、1週間以内の実績報告書を提出すること。

実績報告書に基づき、支払額を確定する。支払額は、契約金額の範囲内であって、実際に支出を要したと認められる費用の合計となる。このため、全ての支出には、その支出を明らかにした帳簿類及び領収書等の証拠書類が必要となる。

また、支出額及び内容についても厳格に審査し、これを満たさない経費については支払額の対象外となる可能性もあるので注意すること。

業務完了後においても、経済産業省が、当財団立ち合いのもとに必要に応じて現地調査等を行うことがあるので協力すること。

6. 応募手続きについて

(1) 募集期間

募集開始日：令和2年5月29日

募集締切日：令和2年6月19日[13時必着]

持参又は書留による郵送等(配達記録付き)でお願いします。

※受付時間(平日9:00~12:00及び13:00~17:00)外の提出は受け付けません。また、電子メール、FAXによる提出は受け付けません。

(2) 応募書類について

- a. 応募に際しては、本公募要領による様式を必ず使用してください。また、応募書類の様式の大きさは全てA4版で統一し、2穴(ISO838)のA4ファイルに綴じてください。
- b. 以下の書類をA4ファイルに綴じて、2部(正副各1部)提出して下さい。なお、電子媒体(CD-R又はDVD-Rに限る。)については、正本に1部添付して提出してください。ディスクのラベル面には、業務名、事業者名を明記してください。

- ① 申請書 (様式第1)
- ② 企画提案書 (様式第2)
- ③ 提案額内訳書 (様式第3)

提案額内訳書は消費税率10%で見積ること。

なお、共同体で申請する場合には、体制表に基づき、構成会社(団体)ごとの内訳書も作成すること。

- ④ 申請受理票 (様式第4)
- ⑤ 添付書類

- ・申請者の概要が分かるもの(パンフレット等)
- ・申請者定款
- ・登記簿(履歴事項全部証明書の原本)
- ・財務諸表(直近2ヵ年分)
- ・その他

- c. 提出された応募書類は本業務の採択に関する審査以外の目的には使用しません。なお、応募書類は返却しません。機密保持には十分配慮いたしますが、採択された場合には、個々の情報の公表・非公表の取扱いについては、情報公開法に基づく情報開示に準ずることとします。
- d. 応募書類の作成費は経費に含まれません。また、採択の可否を問わず、企画提案書の作成費用は支給されません。
- e. 企画提案書に記載する内容については、今後の契約の基本方針となりますので、予算額内で実現が確約されることのみ表明してください。なお、採択後であっても、応募者の都合により記載された内容に大幅な変更があった場合には、不採択となることがあります。
- f. 平成28年度から令和元年度までの事業報告書(概要版)を以下のホームページで公開していますので参考にしてください。また、事業報告書(詳細版)の閲覧を希望する場合やその他の質問等がある場合は「(3) 応募書類の提出先」に記載の連絡先までお問い合わせください。

https://suiryokuhojo.nef.or.jp/research_business/

(3) 応募書類の提出先

〒170-0013

東京都豊島区東池袋3丁目13番2号 イムーブル・コジマ2階

一般財団法人 新エネルギー財団 水力地熱本部 水力国際・技術部

『水力発電の開発・導入のための賦存量調査事業』宛

TEL: 03-6810-0374

注1: お問合せは、土日祝を除く9:00~12:00および13:00~17:00に

お願いします。

注2：上記以外の電話番号では、本業務に関するお問合せにはお答えできません。

(4) 資料

当財団のホームページで、公募要領、各種様式等をダウンロードすることが可能です。

(財団のホームページURL：<https://suiryokuhojo.nef.or.jp/>)

(5) その他

応募期間内に予定価格を下回る価格の応募がない場合、応募者に対して再度提出期限を定めて募集を行う。

7. 審査・採択について

(1) 審査方法

事業者の採択にあたっては、事前に資格審査を行った後、外部有識者で構成される事業評価委員会（非公開）で審査を行い決定します。

(2) 審査基準

以下の審査基準に基づいて評価を行います。

a. 応募資格

申請者は、「4. 応募資格について」の応募資格を満たしているか。

b. 審査項目

以下の審査項目に基づいて総合的な評価を行います。

(技術面)

- (a) 本事業の目的及び目標が明確であるか。また、目的設定及び目標達成に向けた根拠が具体的か。
- (b) 「2. 業務の内容」に書かれた項目が記載されており、事業内容が事業目的に整合しているか。また、具体的に示されているか。
- (c) 業務の実施方法が記載されており、事業目的、事業内容に整合しているか。また、具体的に示されているか。効果的、効率的な方法が採られているか。
- (d) 事業者独自の創意工夫、提案等があるか。実施後の波及効果が期待できるか。
- (e) 事業スケジュールが具体的に記載されているか。また、スケジュールを適切に管理するためのキーデータ、手順や適切に実施できる根拠、経験が記載されているか。
- (f) 業務遂行可能な人数が確保されており、業務の実施体制、役割分担が事業内容と整合しているか。要員、体制、役割分担が明確か。また、財団からの要望等に迅速、柔軟に対応できる体制が備わっているか。実施体制、管理能力、実務経験や

その有効性が適当か。

(g) 組織の専門知識、ノウハウの蓄積が豊富か。また、従事者の保有スキル・専門知識等が豊富か。

(h) 業務遂行のための経営基盤、経営能力を有しているか。

(価格面)

(a) 提案金額が、予定価格の範囲内であるか。

(b) 提案金額が、より低価格であるか。

(3) プレゼンテーション

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、プレゼンテーションは行わないこととします。そのためできる限り写真や図も併用した分かりやすい提案書類の作成を心掛けてください。

(4) 採択結果の通知について

採択された申請者については、一般財団法人新エネルギー財団のホームページで公表するとともに、申請者に対しその旨を書面で通知します。また、採択されなかった申請者に対しても書面で通知します。

8. 契約について

採択された応募者については、一般財団法人新エネルギー財団との間で委託契約を締結することになります。なお、採択決定後から委託契約締結までの間に、一般財団法人新エネルギー財団との協議を経て、業務内容・構成、業務規模、金額に変更が生じる可能性があります。

契約書作成に当たっての条件の協議が整い次第、委託契約を締結し、その後業務開始となりますので、あらかじめご承知おきください。また、契約条件が合致しない場合には、委託契約の締結ができない場合もありますのでご了承ください。

契約締結後、消費税法等の改正により消費税及び地方消費税の税率が変動した場合には、変動後の税率により計算した消費税及び地方消費税額を含んだ委託金の額を上限とする契約の一部変更を行います。

契約締結後、受託者に対し、業務実施に必要な情報等を提供することがありますが、情報の内容によっては、守秘義務の遵守をお願いすることがあります。

9. 対象経費について

本業務の対象となる経費は、業務の実施に要する経費及び業務成果の取り纏めに必要な経費であり、経費の計上に際しては、経済産業省の「委託事業事務処理マニュアル」に従っ

ていただきます。

業務の実施に要する経費の支払いは、原則として事業期間中に行ってください。例外として、支払が委託事業期間外であっても委託事業期間中に発生し、かつ当該経費の額（支出義務額）が確定しているものであって、事業期間中に支払われていないことに相当な事由があると認められるものについては、委託対象経費として認められます。（請負業者等からの請求書は、補助事業完了日までに受領してください。）

10. 説明会の開催

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、説明会は行わないこととします。

11. 応募書類の様式

様式第1

令和 年 月 日

一般財団法人 新エネルギー財団
 会長 市川 祐三 殿

令和2年度水力発電の導入促進のための事業費補助金
 (水力発電事業性評価等支援事業)のうち
 水力発電の開発・導入のための賦存量調査事業に係る業務申請書

(幹事法人) 申請者	企業・団体名	印
	代表者役職・氏名	
	所在地	郵便番号〇〇〇-〇〇〇〇
(共同体) 申請者	企業・団体名	印
	代表者役職・氏名	
	所在地	郵便番号〇〇〇-〇〇〇〇
(共同体) 申請者	企業・団体名	印
	代表者役職・氏名	
	所在地	郵便番号〇〇〇-〇〇〇〇
連絡担当者	氏名 (ふりがな)	
	所属 (部署名)	
	役 職	
	電話番号 (代表・直通)	
	F A X	
	E-mail	

共同体で申請する場合、幹事法人を定め、構成会社毎に記載すること

様式第 2

令和 2 年度水力発電の導入促進のための事業費補助金
 (水力発電事業性評価等支援事業) のうち
 水力発電の開発・導入のための賦存量調査事業に係る企画提案書

1. 業務の概要

- ・ 業務の目的
 ※業務の目的を具体的に記載すること。
- ・ 業務の目標
 ※業務の目標を具体的に記載すること。

2. 業務内容

- ・ 業務の内容
 ※業務で実施する具体的な調査の項目、内容等を記載すること。
- ・ 業務の実施方法
 ※業務で実施する具体的な調査方法等について記載すること。

3. 業務実施計画

- ・ 作業内容およびスケジュール
 ※実施する具体的な作業内容とスケジュールについて記載すること。

(記載例)

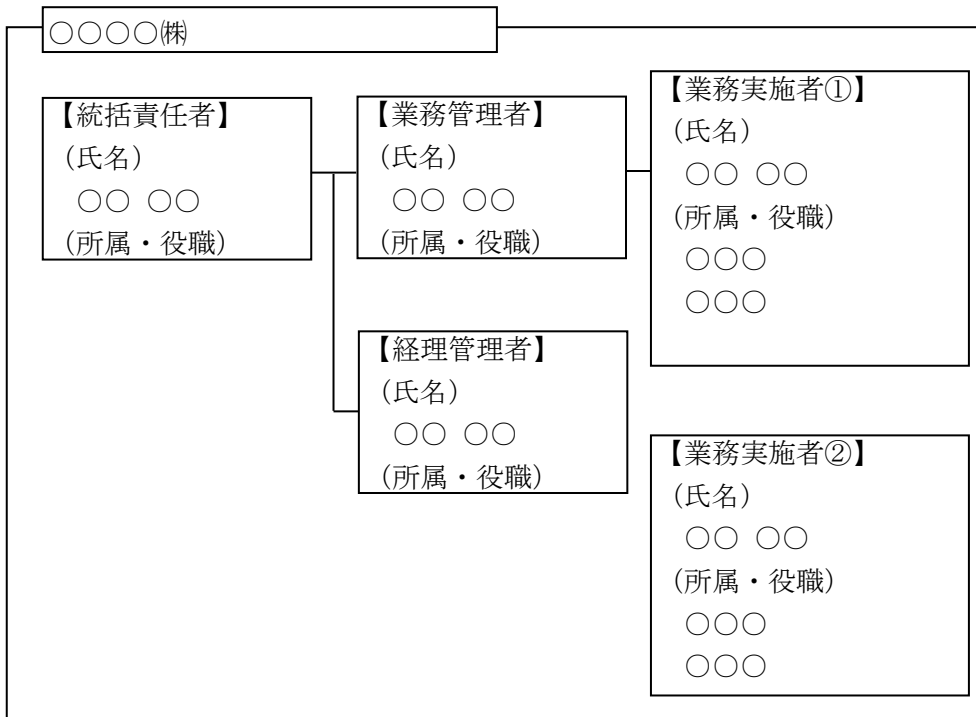
作業内容	令和〇〇年度				備考
	〇月	〇月	〇月	〇月	
1. <項目 1 >					
1-1. 〇〇〇〇	→				
1-2. 〇〇〇〇	→				
2. <項目 2 >					
3. <項目 3 >					
4. <項目 4 >					

4. 実施体制

- ・業務実施体制図、役割分担

※事業者の実施体制や役割分担について、体制上の役割分担や担当者数が分かるように記載すること。

(記載例)



- ・組織としての専門性、類似業務実績等

※本業務に関連する専門知識、ノウハウ、過去の経験等について記載すること。

また、業務従事予定者の業務経験・保有スキル・専門知識等について記載すること。

5. 経営基盤について

※業務を円滑に行うための経営基盤、管理体制（経理処理体制）について記載すること。

6. 応募資格

※応募資格の各項目について、申請者の状況を記載すること。

7. 添付資料

- ・その他必要な書類

様式第3

令和2年度水力発電の導入促進のための事業費補助金
 (水力発電事業性評価等支援事業)のうち
 水力発電の開発・導入のための賦存量調査事業に係る提案額内訳書

(単位:円)

経費項目		積算内訳	金額
I. 人件費			
II. 事業費	1. 旅 費		
	2. 会議費		
	3. 謝 金		
	4. 備品費		
	(借料及び賃料)		
	5. 消耗品費		
	6. 外注費		
	7. 印刷製本費		
	8. 補助員人件費		
9. その他諸経費			
III. 再委託費			
IV. 一般管理費			
V. 消費税			
合 計			

様式第4

申請受理票

令和 年 月 日

受付番号	
------	--

令和2年度水力発電の導入促進のための事業費補助金
(水力発電事業性評価等支援事業)のうち
水力発電の開発・導入のための賦存量調査事業

申請者

企業・団体等の名称： _____

企業・団体等代表者役職・氏名 _____ 殿

FAX番号 () _____

一般財団法人 新エネルギー財団 水力地熱本部 水力国際・技術部
〒170-0013
東京都豊島区東池袋3丁目13番2号 イムブル・コジマ2階
電話 03-6810-0374
FAX 03-6810-0370

本件に関する連絡等につきましては、この受付番号をご使用くださいますようお願い致します。

- ※ 申請受理票は、申請書、提案書を受理したことを証明する書類ですので、名称、代表者の役職・氏名、FAX番号を記入してください。
- ※ 本票は、新エネルギー財団より、申請者に対してFAXにて返送します。